

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 横田 誠二

- I 開催年月日 平成 29 年 12 月 15 日（金）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 11 時 44 分
III 出席委員等 〔出席委員〕◎横田 誠二 ○坂林 永喜 高瀬 充子
角田 悠紀 中村 清志 上田 武
金森 一郎 高畠 義一
（◎…委員長、○…副委員長）
〔議長〕※狩野 安郎議長は委員として出席
〔副議長〕 福井 直樹
〔説明員〕 別紙名簿のとおり（遠山病院長は公務のため欠席）
〔委員外議員〕 なし
〔事務局職員〕 敦賀 茂樹 安東 浩志 柚原 規泰
三好 伸幸
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

- 議案第 87 号 平成 29 年度高岡市一般会計補正予算（第 4 号）
のうち本委員会所管分
議案第 88 号 平成 29 年度高岡市国民健康保険事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 90 号 平成 29 年度高岡市介護保険事業会計補正予算（第 2 号）
議案第 91 号 平成 29 年度高岡市高岡市民病院事業会計補正予算（第 2 号）
議案第 97 号 高岡市保育所条例の一部を改正する条例
議案第 98 号 高岡市ひとり親家庭等医療費助成条例等の一部を改正する条例
「高岡市ひとり親家庭等医療費助成条例の一部改正」
「高岡市心身障害者福祉年金条例の一部改正」
「高岡市重度心身障害者等介添年金条例の一部改正」
「高岡市妊産婦医療費助成条例の一部改正」
議案第 99 号 高岡市自転車等駐車場条例の一部を改正する条例
議案第 101 号 指定管理者の指定について（高岡市伏木児童館）
議案第 102 号 指定管理者の指定について（高岡市野村児童センター）
議案第 103 号 指定管理者の指定について（高岡市戸出児童センター）
議案第 104 号 指定管理者の指定について（高岡市西部児童センター）

及び

議案第 105 号 指定管理者の指定について（高岡市伏木コミュニティセンター）

以上、予算議案 4 件、条例議案 3 件及びその他議案 5 件の計 12 件について、審査の結果、全会一致でいずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【議案第 87 号のうち、高齢者おむつ支給事業費について】

○ 高齢者おむつ支給事業の内容は。また、本事業費 180 万円が補正計上されているが、この補正により、どの程度助成できるようになるのか。

△ 本事業では、寝たきりや認知症により常時おむつを使用している、在宅の一人暮らしの高齢者に対して、経済的負担を軽減するため、おむつの引換券を発行して、購入にかかる支払額を助成している。助成要件として、要介護 1 以上に認定され、住民税非課税であることとしている。

要介護 1 から 3 の方には、月 4,000 円の引換券を発行しており、このうち、利用者負担を 1 割の 400 円として、残り 9 割の 3,600 円を助成している。また、要介護 4・5 の方には、月 5,000 円の引換券を発行しており、このうち、利用者負担を 1 割の 500 円として、残り 9 割の 4,500 円を助成している。なお、本事業は、県から 2 分の 1 の補助を受け、残りの 2 分の 1 を市が支出している。

平成 29 年度の当初予算では、利用者数 320 人、延べ利用枚数 2,000 枚を見込み、事業費 822 万 4,000 円を計上していたが、29 年 10 月時点で、利用者数 270 人、延べ利用枚数 1,555 枚、支給額 593 万 3,000 円であった。この利用者数や利用枚数の増加に伴い、29 年度の最終見込みを利用者数 380 人、延べ利用枚数 2,500 枚と想定している。本定例会では 180 万円の増額補正を上程しており、当初の見込みより、利用者数 60 人、延べ利用枚数 500 枚の増加を見込んでいる。

○ 高齢者おむつ支給事業について、近年の利用人数や、引換券の延べ利用枚数、助成額などの助成実績は。

△ 平成 27 年度は、利用者数 290 人に対し、引換券の延べ利用枚数 1,797 枚、助成額に加え印刷製本費や郵送料などを含めた決算額 710 万 9,000 円、28 年度は、利用人数 326 人に対し、延べ利用枚数 2,134 枚、決算額 839 万 6,000 円であった。

○ 高齢者おむつ支給事業については、要介護に認定されていない者や、住民税課税者も助成を求めていることから、本事業の利用要件の緩和を検討してもらいたい。（要望）

【議案第 87 号のうち、後期高齢者医療対策事業費について】

○ 後期高齢者医療対策事業費 1 億 8,700 万円が補正計上されているが、その理由は。

△ 後期高齢者医療制度の被保険者数は約 550 人増加している。これに伴い健診の受診者数が増加し、健診委託料が約 194 万円増額したこと、また、富山県後期高齢者医療広域連合に支払っている療養給付費負担金が約 1 億 8,506 万円増額したことによるものである。

【議案第 87 号のうち、介護・訓練等給付費について】

- 障がい者の生活介護サービスなどの利用者の増加を見込み、介護・訓練給付費 1 億 6,500 万円が補正計上されているが、利用者が増加した背景は。
- △ 一つには、障がい者の親の高齢化に伴い、支援が困難になってきたことによる介護サービスの利用の増加が背景にあると考えている。二つには、障がい者の就労を通じた社会参加の実現が進められていく中で、就労支援をする事業所が増えてきたことによる訓練費の増加が、背景にあると考えている。なお、現在、市内では就労継続支援 A 型事業所は 13 カ所ある。

【議案第 87 号のうち、障害児通所等支援事業費について】

- 障がい児の放課後等デイサービスの利用者の増加を見込み、障害児通所等支援事業費 4,752 万円が補正計上されているが、利用者が増加した背景は。
- △ サービスの利用者数は増加傾向にあり、月平均の利用者数は平成 27 年度 約 100 名、28 年度 約 130 名、29 年度は上半期で 約 150 名となっている。この背景には、就学中の子どもたちの放課後や夏休み・冬休み期間の支援サービスとして広く周知が進んだことや、サービス事業者が子どもを学校まで迎えに来てくれること、市内にサービス事業者が増えたこと、本サービスが保護者の就労ニーズとマッチしていることなどがあると考えている。

【議案第 87 号のうち、二上霊苑施設管理事業費について】

- 二上霊苑施設管理事業費 152 万円が補正計上されているが、その理由は。
- △ 二上霊苑の全区画は、約 6,000 区画であり、そのうち約 1 割の区画の墓碑が未建立である。年間十数区画が返還されているが、近年では、この返還件数が増加傾向にあり、未建立の区画の返還が目立ってきている。平成 29 年度は、当初の想定を上回る返還実績が見込まれることから、新たに第 2 種 1 区画、第 3 種 3 区画、第 4 種 2 区画の返還を見込み、補正予算を計上したものである。
- 墓地を求める市民が多数いることから、二上霊苑における返還された空き区画はできるだけ速やかに使用者を募集してもらいたい。また、施設を有効利用するため、空き区画をなくすように働き掛けるべきでは。
- △ 使用者の募集は、返還された区画がある程度まとまってから実施することとしていることから、隔年で抽選会を開催している。なお、申込者には、使用許可を受けた後、3 年以内に墓碑を建立することを要件としている。

【議案第 87 号のうち、木造住宅密集地域火災対応力向上モデル事業について】

- 木造住宅密集地域火災対応力向上モデル事業では、博労地区のうち、防災まちづ

くり連絡協議会に参加している 8 自治会をモデル地区としているが、この地区の全世帯を対象に本事業を実施するのか。また、本事業の実施期間は 2 カ年としているが、期間終了後、どう展開していくのか。

△ モデル地区とする 8 自治会にある約 400 世帯の一般住宅の中から、本事業に協力してもらえる世帯を対象に、平成 29 年度と 30 年度の 2 カ年で、無線連動タイプの住宅用火災警報器と補助警報装置を設置することとしている。また、火災警報器を設置した世帯を対象に、火災警報器を活用した消防訓練を実施するほか、アンケート調査も実施する。これらの結果を検証し、木造住宅密集地における火災予防対策に反映させていきたい。

○ 木造住宅密集地域火災対応力向上モデル事業のモデル地区とする 8 自治会以外の周囲の自治会にも、無線連動タイプの住宅用火災警報器などの P R や防災訓練への参加を呼びかけ、より多くの住民に防災意識の向上を図ってもらいたい。（要望）

【議案第 99 号 高岡市自転車等駐車場条例の一部改定について】

○ 高岡駅北口に新設される高岡駅前東自転車駐車場について、本施設の収容台数は。また、防犯対策をどう考えているのか。

△ 本施設は、鉄骨 2 階建てであり、自転車の収容台数は 766 台として整備を進めている。また、防犯カメラを設置する予定である。

【議案第 101 号 指定管理者の指定（高岡市伏木児童館）について】

○ 伏木児童館をはじめ市内 4 つの児童館等の指定管理者として、地元の各管理会を指定するとしているが、施設を管理する人員体制は。また、人件費の詳細は。

△ 本施設を管理する人員体制は、館長 1 名および児童厚生員 2 名としている。賃金は月給制としており、今回の債務負担行為補正では、館長は月額 28 万 8,900 円を上限としており、児童厚生員 2 名については、月額 13 万 5,450 円、または 11 万 6,100 円を上限としている。

○ 伏木児童館などの指定管理者による施設運営については、職員の待遇を十分に配慮してもらいたいが、見解は。

△ 職員の待遇の重要性は認識しており、指定管理者からは、指定の期間、毎年報告書を提出してもらうことで、職員の待遇面の満足度を確認していきたい。

【補正予算議案の上程に伴う当局からの説明について】

○ 本市での平成 30 年度以降の約 40 億円の歳出超過が見込まれている問題を踏まえて、当初予算での想定を上回ったことなどにより増額補正をするに当たっては、当初の見込みや実績、どの程度の追加を見込んでいるのかを具体的な数値で示してもらいたい。

△ 今後、予算議案の上程に当たっては、補正の必要性を十分に理解いただけるよう、詳細な説明に努めていきたい。

2 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔市民生活部〕

- 。第2次高岡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画及び高岡市災害廃棄物処理計画の策定について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〔福祉保健部〕

- (1) 平成30年度国保事業費納付金算定結果及び国保財政運営見通しについて
- (2) 平成29年度高岡市高齢者インフルエンザ予防接種費用助成期間の延長について

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

【国保事業の都道府県単位化に伴う影響について】

- 当局は、国保事業の都道府県単位化が国保税の引き上げにつながる影響は生じないとの見解を示しているが、中・長期的な懸念は十分に払拭されていない。国の財政支援が減少していることを踏まえて、全国市議長会を通して、国からの財政支援の強化を要望すべきと考えるが、見解は。

△ 国は、新たに毎年約1,700億円の財政支援を行うことを示しているが、この財政支援を今後も確実に継続するよう、国や県に引き続き要望していきたい。

本市の国民健康保険の被保険者は、65歳以上が多く30・40歳代が少ない年齢構成となっており、近年は、高齢化の進展により医療費が増加傾向にある。本市では、高齢介護課が、元気な高齢者の健康維持や、要支援者の健康改善を図るための取り組みを行っている。また、健康増進課では、病気の予防のためバランスのよい食生活の啓蒙などにも取り組んでいる。これらの取り組みにより、増加傾向にある医療費の抑制を図ることで、国保税率が11.5%を超えないよう努めていきたい。

【高齢者のインフルエンザ予防接種について】

- 高齢者のインフルエンザの予防接種について、本市では、予防接種に係る費用負担を軽減するため助成を行っており、個人負担を1,500円としている。県内他市でも同様の助成を行っており、個人負担を1,200円としている自治体もあることから、本市でさらなる助成を検討してはと考えるが、見解は。

△ 本市は厳しい財政状況にあるが、現状の助成を維持できるよう努めるとともに、さらに助成を拡充する可能性についても検討していきたい。

- 高齢者のインフルエンザの予防接種について、助成期間を平成30年1月末まで延長するが、感染のピークが過ぎてしまうと十分な効果が得られないのでは。

- △ 一般的に、予防接種をした後、1 週間から 3 週間でワクチンの効果が見込まれる。
平成 29 年度は、12 月 15 日時点でインフルエンザの感染が流行する兆しはない。流行前の予防接種によって、感染の拡大を抑制する一定の効果が期待できると考えている。併せて、市民には、健康管理の注意喚起をしていきたい。

〔消防本部〕

- (1) 高岡市・氷見市消防広域化勉強会における協議結果について
- (2) 歳末消防特別警戒・消防出初式・消防艇出初式について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

【交通安全対策の推進体制について】

- 交通安全対策については、高齢者の運転免許の自主返納に対する支援のほか、交通安全協力金の徴収や、交通安全の啓発活動、交通安全教育の実施などがあり、本市や県、警察等で、それぞれ推進しているが、どの行政機関が主導しているのかわからない。

事業に応じて、本市や県、警察など異なる行政機関とのやり取りが必要であり、窓口がわかりにくいので、市民は苦慮していると聞く。市民にわかりやすいよう、交通安全対策の推進体制を一元化すべきと考えるが、見解は。

- △ 本市のほか、公安委員会や警察、県、交通安全協会などが連携しながら、それぞれ異なる立場で、効果的な交通安全対策を推進することは必要なことと考えている。本市としては、市民や自治会などが行政機関とのやり取りをするに当たって、事務手続きなどが煩雑にならないよう努めていきたい。

【老人福祉センターの利用状況や運営について】

- 老人福祉センターでは高齢者に入浴サービスを提供しているが、この利用状況は。
- △ 伏木老人福祉センターの入浴者数は、平成 29 年 11 月が 576 人、29 年累計が 4,094 人である。東部老人福祉センターの入浴者数は、29 年 11 月が 1,075 人、29 年累計

が 8,047 人である。牧野老人福祉センターの入浴者数は、29 年 11 月が 932 人、29 年累計が 7,628 人である。また、西部老人福祉センターの入浴者数は、29 年 11 月が 1,147 人、29 年累計が 9,073 人である。

- 近年の老人福祉センターの入浴者数は 1 日平均 50 人を下回っていることから、入浴サービスを毎日提供するのではなく休止する日を設けることや、夏期間はシャワーのみの利用とすることなどで、光熱水費の抑制を図ってはと考える。本市の厳しい財政事情を踏まえて、積極的な経費の節減を関係部署とも協議しながら検討してもらいたいと考えるが、見解は。
- △ 老人福祉センターは、入浴だけではなく、住民がコミュニケーションを図るための場の提供を本来の目的としていることから、施設が設置された本来の目的を勘案しつつ、民間事業者の銭湯の利用を促す観点も踏まえて、検討を進めていきたい。

〈 当局からの次の報告があった。 〉

〔市民生活部〕

- 。第 2 次高岡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画及び高岡市災害廃棄物処理計画の策定について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

民生病院常任委員会 当局説明員（24名）

市民生活部長	青 島 恒 巳	市民病院長	遠 山 一 喜
次長 地域安全課長	堂 故 真 二	市民病院事務局長	今 井 隆
地域安全課 環境政策室長	赤 阪 典 子	総務課長	崎 安 宏
共創まちづくり課長	藤 田 辰 昭	医事課長	長 田 由美子
共創まちづくり課 多文化共生室長	寺 口 昌 代		
男女平等・共同参画課長	中 村 晴 美	消防長	澤 崎 茂
市民課長	山 本 美由紀	次長	寺 口 克 己
環境サービス課長	堺 啓 央	総務課長	広 田 一 徳
		予防課長	牧 真
福祉保健部長	吉 澤 実	警防課長	田 川 裕 之
次長 社会福祉課長	西 本 幸 夫	通信指令課長	浦 島 章 浩
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	村 上 彰		
高齢介護課長	大 江 菜穂子		
保険年金課長	柴 野 泰 彦		
健康増進課長	上 見 弘 昭		